

令和5年度 第1回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 令和6年3月28日（木） 午後2時30分～午後4時

【場 所】 豊田市役所 南74会議室（南庁舎 7階）

【出席者】 （委員） 伊藤 央二（中京大学スポーツ科学部 准教授）《会長》
粕谷 浩二（（公財）豊田市スポーツ協会 常務理事）《副会長》
梅村 郁仁（（株）名古屋グランパスエイト 広報・ホームタウン部 部長）
清水 弥生（（一社）豊田市身障協会 副会長）
田口 賢一（愛知県中小学校体育連盟豊田支所 支所長）
谷山 由香利（豊田市女性スポーツ団体協議会 会長）
塚本 誠（（株）豊田スタジアム 専務取締役）
手嶋 道雄（豊田市スポーツ少年団 本部長）
仁村 保郎（豊田市スポーツ推進委員協議会 会長）
野尻 雅代（公募委員）

【欠席者】 （委員） 安藤 貴通（公募委員）
岩月 幸雄（豊田市健康づくり協議会 会長）
桑原 大輔（トヨタ自動車（株）トヨタスポーツ推進部スポーツアセットG グループ長）
築瀬 歩（豊田市地域スポーツクラブ会議 委員）

【事務局】 都築 保裕（スポーツ振興課課長）阿垣 一大（スポーツ振興課副課長）
藤村 修祐（スポーツ振興課担当長）原田 行滋（スポーツ振興課主査）
宇佐美 雅也（スポーツ振興課主査）榊原 健児（スポーツ振興課主事）

【傍聴人】 なし

【会長等の選任】 立候補及び推薦がなかったため、事務局案として中京大学の伊藤准教授を会長に、豊田市スポーツ協会の粕谷常務理事を副会長に推薦。出席した委員の賛成多数で可決された。

【次 第】 1 会長あいさつ
2 スポーツ振興課長あいさつ
3 委員自己紹介
4 議題
（1）第4次豊田市生涯スポーツプラン進捗状況について
（2）部活動地域移行プラン骨子について
（3）第5次豊田市生涯スポーツプラン策定のスケジュールについて
5 その他

【会議録（議題部分のみ）】

■議題（１）第４次豊田市生涯スポーツプラン進捗状況について

事務局：資料に基づき、第４次豊田市生涯スポーツプランの進捗状況について説明

会 長：事務局の説明について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委 員：豊田市のスポーツ事業について、いろいろな施策があるが、これまで知らなかった。

共働き家庭の増加等もあり、参加できている子どもの人数が少ないのではないかと感じる。親が送迎できる家庭はイベントや教室に参加できるが、そうではない家庭の子どもは一向に運動能力が伸びないのではないかと感じる。また、地域によって子ども会などの活動が活発な地域、そうではない地域がある。周りに運動できる環境がないと、子どもは興味が持てない。例えば、十数年前に比べて豊田市はサッカーの街という印象が薄れていると感じる。子ども会で購入したフットサルゴールが使われていない事例もある。サッカーだけを推すわけではないが、子ども会の活動でフットサルのイベントを行うなど、学校以外で子どもがスポーツに触れ合う機会を作ってほしい。

事務局：どうしても地域ごと、時代ごとに変化があり難しい課題である。また、サッカーだけでなく様々なスポーツを推進したいという思いもある。

委 員：私の若いころは豊田市子ども会育成連絡協議会（市子連）のフットサル大会が大々的に行われ、決勝を豊田スタジアムで行っていた。今は運動公園などが会場になり、コロナもあったためか参加者が少なくなっている。子どもを連れて行かないといけないため、親に負荷がかかる。親が参加できる環境づくりが必要ではないか。

事務局：地域でのスポーツ推進にアプローチできる部分があるか考えていきたい。

委 員：中京大学の学生がイベントの補助等を行っていると思うが、子ども会の補助などを学生に依頼することは可能か。親が連れていけない家庭向けに出張での教室などがあるとよい。

会 長：可能だと思うが、部活動を通じてか、研究室を通じてかなど、どのように学生にアプローチするか。大学を挙げて学生ボランティアの派遣を大々的に行っているわけではないため、スポーツ振興部等に連絡をいただいて調整を依頼することも１つのオプションになるかと思われる。

委 員：コロナもありスポーツプランの進捗状況が悩ましい結果になっているのは致し方ないと感じる。成人や障がい者などの状況に関しても資料１裏面にあるように、今後のアプローチの方法を示していただけるとありがたい。

委 員：部活動の廃止の話題があるが、今後どのように運動能力の向上に向け継続的にアプローチしていこうと考えているか。また、地域指導者の報酬などはどう考えているか。

事務局：地域スポーツクラブとの連携などを考えていきたいが、現時点で明確に言えることは少ない。部活動の地域移行の詳細については、この後の「議題（２）部活動地域移行プラン骨子について」で説明させていただく。

■議題（２）部活動地域移行プラン骨子について

事務局：資料に基づき、部活動地域移行プラン骨子について説明

会 長：事務局の説明について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委 員：①大会型、体験型などがあるが、理念は中学校区ごとに異なるのか。②行政の補助（現地確認、監査）などは入るか。③地域との連携がうまくいかなかった場合、民間の事業者を入れる考えはあるか。④小学校の部活を再開するという考えはあるか。

事務局：①根本の理念は統一していきたいが、中学校区ごと、部活ごとに子どもたちの意向を踏まえ柔軟に対応したい。②監査等は具体的には決まっていないが、指導者の質の確保が必要だと考えている。数校区を束ねる人材の配置なども検討したい。③現時点では持っていない。④現時点では中学校の地域学校共働本部を主体とした活動に小学生が参加してもらうことを考えている。

委 員：①人材バンクは委託ではないのか。②子どもたちが自分の学区にない部活に参加できるという話があったが、例えば、同じ種目でも大会型、体験型が異なる場合に、自分の志向に合う学区に参加できるのか。

事務局：①現在、愛知県が人材バンクを開発している。豊田市に合うかどうかを確認しながら、県の人材バンクを活用するか独自の人材バンクを作るか考えていきたい。②可能性としては十分にあると思う。学校間の移動をどう考えていくかが課題。

委 員：これが実現すれば本当にすごいプラン。校長会ではやるしかないという雰囲気。スポーツ振興課が主体となって動いてくれたのは本当にありがたい。その上で、学校現場としていくつか意見を伝えさせていただく。中学校の部活動は地域に移行し変わっていくが、高校は変わらず、強い部活は強いままである。子どもたちが何を望んでいるか。この学校で勝ちたいという思いがあるのではないか。市によって方針が違うので、豊田市の子どもが取り残されてはかわいそう。地域学校共働本部は、人員は変わるし、報酬は少なく、それほど強い組織ではない。行政の専門部署を設置するということに行政の本気度は感じる。継続的に実施できる体制としてほしい。部活動コーディネーターも指導者を積極的に探せるような体制ではない。指導者として優秀な教員もいるが、地域移行で一度手を放してしまった場合、二度と戻ってこない。自分が勤める学校の子どもと一緒に活動に取り組んでいきたいという教員もたくさんいる。やる気のある先生が活躍できる形も残していければと感じる。人材バンクを委託する案は良いと思う。怪我や体罰、セクハラなどが起こった時、誰が責任を取っていくのかを明確にする必要がある。小学校の部活の復活はないと感じている。他市では、運動能力の高い子どもを集めて全国大会に出ようとしている市もある。

事務局：多くの情報をいただきありがたい。教員の活躍の場に関しては勤めている学校でという考えもあるとは思いますが、市民の一人としてお住いの地域で指導者として活躍いただければと思う。

委 員：孫が部活動をやっているが、いつ部活動が地域に移行するのかがわからないまま、部活を続けるか、クラブチームに入るか、子どもたちも保護者も迷っている。他の学区へ越境して部活に参加する子どもも出てきている。

事務局：早いタイミングで確実な情報を出せるように進めていきたい。

委 員：学校という安全な場所で、子どもの指導に精通した先生が部活動を指導する形式は日本独自の伝統として根付いている。国が方針を示したとしても、学校の部活動が

続けられるように学校に対して資金や人材を投入するべきだと考えている。子どもたちのアンケートでも現状に満足していると結果が出ている。定年延長、女性の就業増加等もあり、「地域」は人材不足の状況。無償のサポーターを受け取る人はいないのではないか。今の部活と同じイメージで地域指導者を配置するというのは想像できない。むしろ一部は民間に委託し、一定の参加費を集めて運営する方が現実的だと思う。モデル校や先進地でうまくいっている事例があれば教えてほしい。プランは理想だが、実現が難しい際は、現状の学校部活動の支援を強化するといった再検討の余地があってもよいのではないかと。また、この計画を実施するための予算規模は年間どのくらいと考えるか。

事務局：すべての人が賛成するプランはないため、反対意見も真摯に受け止めたい。引き返すことも選択肢として頭には残しながら、実現する方向で考えていきたい。先進地の事例は調査しているところ。モデル校の状況とあわせて次回までに示せるようにしたい。

委員：子育てが終わった世代はボランティアでも指導をしている人もいる。市が積極的に企業などに人材募集のPRを行ってほしい。活躍できる場が分かれば参加したい人はたくさんいると思う。

■議題（3）第5次豊田市生涯スポーツプラン策定のスケジュールについて

事務局：資料に基づき、第5次豊田市生涯スポーツプラン策定のスケジュールについて説明

会長：事務局の説明について、ご意見、ご質問があればお願いしたい。

委員：第5次の期間は何年間になるか。

事務局：第4次豊田市生涯スポーツプランは、上位計画である第8次豊田市総合計画の期間に準じている。現在、策定中の第9次豊田市総合計画の計画期間は5年を想定しているため、そういった状況も踏まえてプランの期間を検討していきたい。

以上